

成形圖說

五穀部

十九二十

庫文閣内		和
三 八 函	三 一 一 六 五	書
架	冊	類

庫文閣内		和
一 九 六 函	三 一 一 六 五	書
架	冊	類

史一七五

内閣文庫	
番號	和 31165
冊數	15 (10)
函號	196 100



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

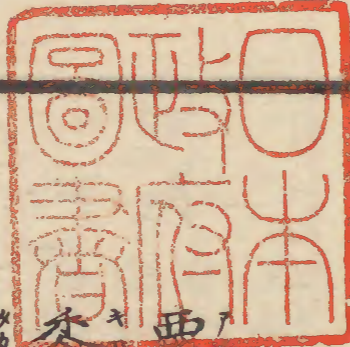


© Kodak, 2007 TM: Kodak



成形圖說卷之十九

目錄



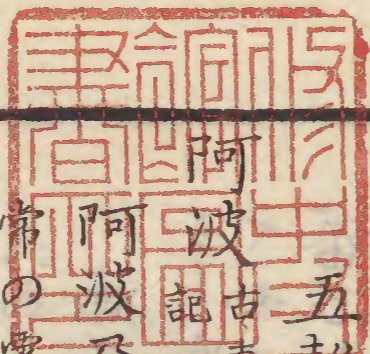
栗

蜀黍

玉蜀黍

成形圖說卷之十九

成形圖說卷之十九



五穀部粟類

阿波乃字留志禰本艸和名粟米之莖白者按之是等即平

粟別錄○粟の古文七字並一字典載り引食經梁米一名芭粟一名稭米○本艸時珍云周禮九穀

六穀之名有梁無粟可知矣自漢以後始以大而毛長者為

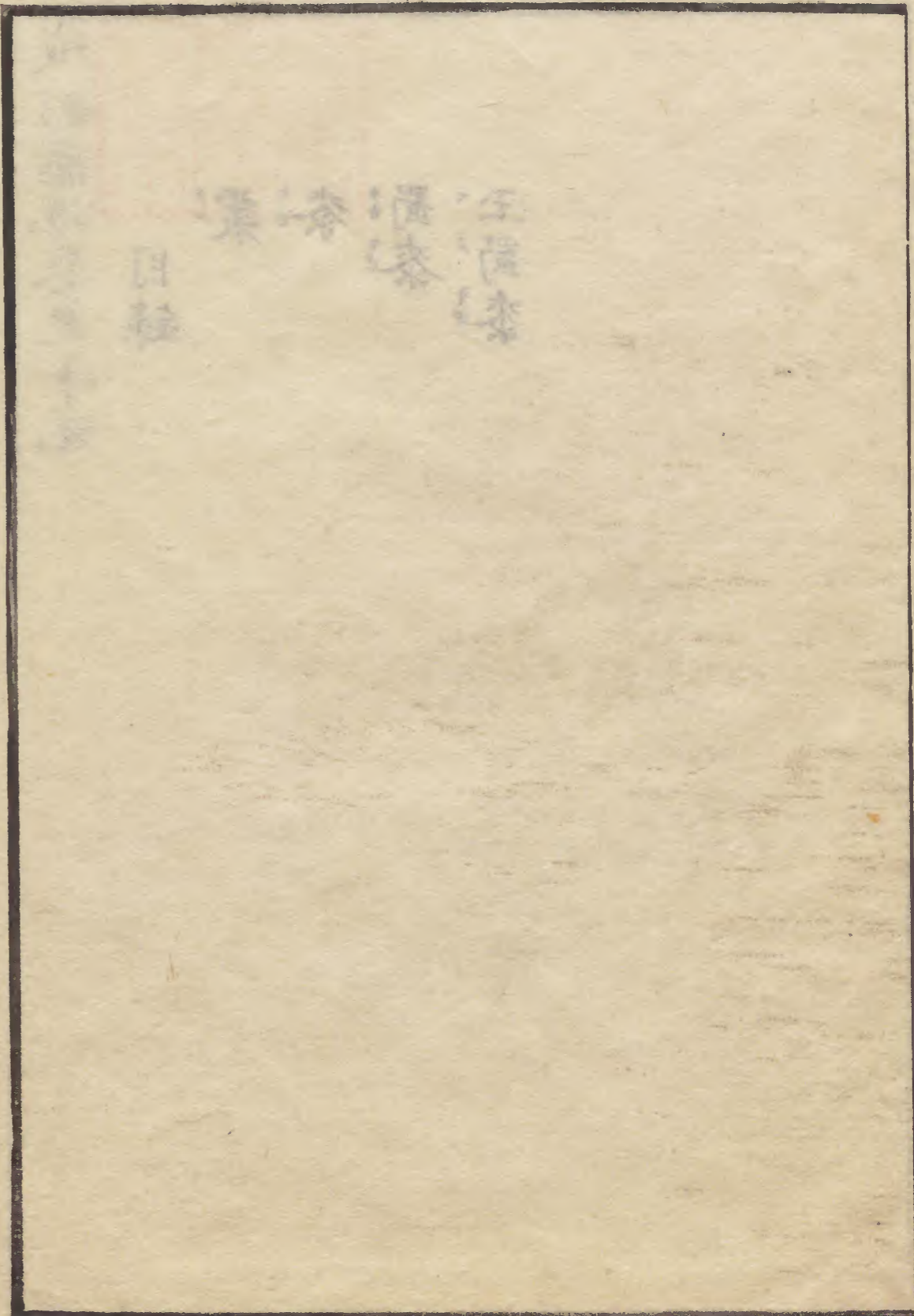
梁細而毛短者為粟今則通呼為粟而梁之名隱矣西土

の長短をけ阿波と梁と漢以前の粟阿波と今の阿波と

稱耳故論孟の粟と者今の阿波と者ハ穀實ハ必

らと江談抄と近世以粟為梁とハ吾邦のむ

成形圖說卷之十九





黄粟

長穗梁

白粟

青粟

名抄引唐韻粟米子也。阿波とやハクちしハ
 らに木子とハ稲粟稷麻乃子とかけていつは
 よし存居氏といつり。今按西土はたむ陸種
 て々も山東の地ハ福田ふしといつり。さ
 ハ粟といふ米といつるがく。穀羣芳譜粟米之
 穀の惣稱も係しといふ。穀脱殻則為粟米亦曰小米
 中之一粟屬也。北方直名之曰穀。穀則為粟米亦曰小米
 又直省志書云。道化州粟早熟晚熟土人總名曰穀。○天工
 開物云。梁粟種類名。多視黍稷猶甚。其命名或因姓氏
 山水或以形似。時令總之。不可枚舉。山東人唯以穀子呼之
 併不知梁粟之名也。○
 郷其禮私粟孟詵水艸大抵粘者為秫不粘者為粟故
 ろ一粟あは糖粟み別飯穀梁穀米以上咸私粟ハ即
 て私の名と稱くも
 藩名ギイルスト
 黄粟 葉齏

濱照

黒粟

粟奴



黄粱米

別錄○按子考工記丹林註丹
秫赤粟也即黄粟也

蕃名

白粟

本州和名○俗言
白とくく何故也

猴粟

訓蒙圖彙
芭粟あり

吳志奴粟

白粱米

和名鈔引食經白粱米一名圓米按子爾雅
芭と白苗ハ今之白粱粟と即此との耳

蕃名

阿波乃與禰

本州和名

青粟

楮粟

青粱米

本州和名引陶景注
粱米皆是粟類也

蕃名

保食神

の顯上

みして

つとの生

る

は

高仰

の靈

宜しきは示りありる葉子子振神の靈ありしあり

赤子種イヒナラハシの大小長短色の黄白青赤黒阿トコロの地里イヒナラハシの方言イヒナラハシも
 因ハヤオツに早晚タチカキリ乃種タチカキリ類タチカキリを以ハて名状百品ハ及ハ一ハ也ハ○春ハの
 粟ハと種ハハ挑ハ花始ハて開ハと上ハ時ハとし四月ハと中ハ時ハとし五月ハ
 と下ハ時ハとし早ハ粟ハハ六月ハ末七月ハ始ハてハ越ハく早ハ粟ハハ字鏡ハ
 和ハ世阿和ハとつハありハ阿和ハの和ハハいハつハ波ハとハ○冬ハと
 の粟ハと種ハハ初伏ハと上ハ時ハとしハ土用ハ中ハ迄ハハ前ハくハしハ右角ハ
 乃ハ好ハハハうハ急ハくと粟ハをハ進ハゆハ急ハ終ハるハ魚ハりハ〇粟ハとハ〇
 水地ハハ三四十日ハ前ハはハ深ハく耕ハしハ前ハ時ハはハ淺ハく犁ハとハ併ハし
 種子ハと桶ハをハ入ハて人馬牛ハ乃ハ糞ハ反油ハ障ハの穀ハと壤ハと操ハ合ハ臂ハ
 小容ハて前ハをハし前ハうハるハ上ハとハ行ハ足ハをハて踏ハ豆ハをハしハ農業全書
 小春ハうハるハ

しハ少ハし踏ハぶハし夏ハハ急ハとハしてハとハ好ハまハ生ハるハとハつハハ
 深ハく夏ハハ踏ハふハとハ置ハし踏ハされハハ蟻ハ患ハ種子ハと穴ハをハ引ハ入ハ
 るハゆハりハとハふハし故ハ〇一ハ法ハハ梅ハ雨ハの中ハ茶ハとハもハ鋤ハめて
 二ハ三ハ通ハ犁ハとハ無ハし初伏ハをハなハりハて又ハ犁ハて馬ハ把ハ乃ハ類ハをハ草
 不ハとハろハとハ拖ハ擺ハつハ後ハ一人ハ鍬ハとハんハがハんハぎハ切ハられハ後
 あり一人ハ壤ハをハむハ合ハせし種子ハをハ前ハよりハ〇又ハ春夏ハ乃ハ間
 原路ハ乃ハ原ハをハ燒ハ燒ハぬハて粗ハく削ハり或ハハ土用ハ前ハよりハもハもハと
 伐ハ土用ハよりハりハて即ハ火ハとハんハ燒ハ野ハ火ハをハるハ中ハに雲ハ霧ハの子ハと
 まハつハ漫ハ撒ハしてハ入ハるハらハつハ保ハじハぶハらハせハされハるハも
 此ハ実ハありハ是ハハ山人ハの一ハ法ハをハりハ蓋ハ粟ハハ柱ハ日ハ當ハと喜ハて高
 燧ハをハ宜ハしハ火ハ種ハして生長ハよりハ既ハに長ハて六ハ早ハも遇ハと

いへどもあし傷あし周禮訂義云粟耐乾雖歲之早不
至太失云々○凡粟と時ハ一段種五六合あるをし瘠
土ハ多く耐なり又粟と種ハ日午より未時までの交
あるをし且と父もとるうは次農の常言ハ蚯蚓のをひて
粟種どとハ晩景に及ぬくさるはいつの大雨乃後或
ハ雨中に前六と皆雨ハ雨後あはれ二三日とし土乾
てよりうへるつと日ヒヨリ和ウカと候ハ種下せし粟は三日ふ
く馬耳のくく生長オヒマツなるを苗二寸の時にて粟
と沖は一過るく留川あり又七八寸より及ふ時一過有
川を渡りし苗は又一過有川よりりてナコブ手拳の出入り

とに苗と洗スカはるし粟はいつ種と畦ウジは広く苗稀ウツく引
きると習カウくやり○糞は用うとも新タシくはよきとつりつ
ハカウ穢シと云はと節ノに生し遇タシ種ハ成ると夏のりあし
肥養ハ地道クニトコロより好ヨシ悪アジ何と并ナあるハ糠とつりい上方
ハ粥カウとよしととるりことし凡肥養ハ人糞のさるる
火糞水糞乾糞油滓ホシ稗糠馬牛の屎尿魚骨の骨肉ホシ草カスは藻
落の類ホシよむりて地トコロの燥カキ溼レ別コハ柔ハ小バ應ナハ其土チの黒白
黄青或ハ沙石の相ホシまがとるよシはの糞シとよシの分シをわし
老農トヒハタツ稔ツアし○粟ハ熟して遊シく刈シとよしとるり刈
よとるり刈シか刀シあシとるりて穂シとちぎりをあシて藁シは



黒秣

青秣

黄秣

ま攤^{ヒロ}者^ヲ烈日^ノ日^ニ暴^{ホス}おと三四日^ハ許^カし連^{カラ}耘^{サカ}よて打^{ウチ}脱^トを^ツし
 或^シハ臼^{ウス}ふて春^{ハル}箕^ヒよて簸^ヒ或^シハ篩^ヒ麗^レよて^シほし苞^カと^ス一
 て儲^{タカ}蓄^ホつし粟^ムは稻^コ米^メと^ナる^ナい^ナぬ^ナ十年^トと^モ磨^ヒとい^フつ^トも^モ虫^シ
 蝕^ム乃^チ憂^ウふ^ク飢^ウ僅^ニと^モ故^ニハ軍^{イク}實^シと^モ峙^タ是^レよ^リる^ルもの^ノあ^しま^し
 稻^コ子^メ亞^ツての嘉^カ穀^クより但^シ生^ケ飯^イよ^リて^ハ他^ホ物^カと^モす^ト一
 け^レは^コ可^クら^シら^ズと^モ斗^ト○公^コ事^ジ根^ネ源^{ゲン}曰^ク京^{キョウ}極^{キョク}よ^リて粟^ムの^ノ御^ミ飯^イ
 と^モ献^シる^ル蘇^ソ民^{ミン}将^{シヤウ}來^{ライ}の^ノ由^ユ者^{シヤ}と^モく^レや^レ此^{コノ}所^ノよ^リ少^{シヤウ}将^{シヤウ}井^イと^モつ^ト又^{マタ}ハ
 稻^コ田^{テン}姫^{ヒメ}と^モ祀^ヒり^スと^モす^ト
 糯^{モチ}粟^{アハ}^式延^ニ喜^シ
 秣^{モク}月^{ツキ}令^シ○時^{トキ}珍^{チン}云^ク謂^フ秣^{モク}
 為^シ黍^シ之^ノ黏^ネ者^{シヤ}悞^カ也^{ナリ}
 衆^{シュウ}粘^ネ粟^ム^{以上}
 糯^{モチ}秣^{モク}
 糯^{モチ}粟^ム^{以上}

猿手稗

狗尾粟



真稗

唐本

黄糯目

粘穀

小黄米

以上盛
京通志

蕃名クノギールスト

糯米と亦其色黄黒赤白等の種類ありてその中より色較
十種乃屈ありて其色を以て黒糯黄糯青糯粟赤糯
呼別也但し種獲の法ハ粟粟子同く粟餅子似りハ糯
米と安ふと云○粟或酒ハ即焼酎なりて焼酒火酒など
名ゆ今の焼酎ハ南島粟盛み出たり粟中て釀し造り釜
瓶にて蒸み其氣の蒸上り醗酵し酒なりハ粟酒と稱す
盛の字ハ修しを以て一は蒸み瓶に包き下し入る時泡
此もの吾南島乃精製風土の自然に成て天下無比の醇

酒也その故ハ南島大じり水田少く粟のそ多く此より
 是ハ恒煖地ノ日當と赤おとのありて凡南島の粟ハ蜀
 黍セビのよりく穂乃長二尺程ありて穂の耐ハ正月
 化ハ粟ハ種子耐し苗三四寸の頃雨沖ハ振ハ搗ハ糞水ハ浸
 し二三存ハぐハ子ハ移ハよりハありハかハ大穂の粟ハて
 造ハする酒ハあれハ其満氣ハもハさハ中ハ稲ハまでハ醒ハせるハ子ハ若ハち
 けハる芳烈ハと得ハぞかし又後ハハ稲ハ米ハまでハ造ハする天工
 関物ハ粘ハ粟ハ可ハ為ハ酒ハとハあるハも焼耐ハの類ハあるハべし
 粟穂ハ新撰ハ粟穰ハ同上
 穂ハ子ハ八頭蓬ハ藜ハ猿ハの長穂ハふとの目粒十種ハの形似ハ子

象ハる凡粟の頭莖と袴ハとハしハ袴ハもく出ハぬハバ水年ハのハ頭
 子ハ鉦ハありハ宋書ハ云ハ文帝時醴湖ハ○粟穰ハ田舎の上屋と葺
 霜雪の霰ハとハ又書紀ハに少彦名命ハ至淡路ハ而縁粟莖ハ則彈
 渡而往常世郷矣ハは命渺ハする斯身ハありて天下造成ハの
 大功ハを以て己の力とせど其功清ハ短ハく念慮ハと折ハ曉ハし去
 就の道ハ子ハ明ハ子ハマハ存ハの場ハ子ハ歸ハしハは語ハ嗣ハしハ所ハありハし

伎備舊事紀○是黍

伎備乃毛知和名鈔○黍ハは粘ハとハて用ハうハ米ハの種ハとハ其ハと
 粘ハ黍粘ハ粟ハ統ハ名ハ曰ハ秫ハ○古今注ハ云ハ糯黍ハ本朝ハ眞黍ハ
 稲ハ之粘ハ者ハ曰ハ秫ハ黍ハ之粘ハ者ハ為ハ黍ハ
 成形圖說卷之十九

黍



黍本州○說文以大暑而種故謂之黍時珍云稷之黏者為黍
籥合禮
糖粬字典蜀人謂黍曰糖粬

蕃名ソルグト
赤黍和名鈔○本朝食鑑曰糯黍者狀與稻黍同而粒大色赤而粘作餅及團子而食味美為上膳是赤黍也

丹黍赤黍黃黍以上和名鈔引本州○盧
目記勝之引詩云維糜維芑糜即麩音轉也
赤苗麩音門爾

通雅丹黍謂之糜音門今河西人音糜
苗也○網目吳瑞云浙人呼為紅蓮米
江南多白黍間有紅者呼為赤蝦米

蕃名

黑黍和名鈔○本朝食鑑曰有黑黍者是糯黍之黑色者也

秬爾雅秬黑黍注詩云維秬維秠釋州秬亦黑黍又秬一

雅云秬二米此亦黑黍但中米黃耳秬稭古今語之異○通
此說稭也○網目李巡云秬是黑黍中一稭有二米者古之

定^レ律^者粒^並均^勻無^大小^然也^天工^開物^云凡^黍粒^大小^總視^土地^肥磽^時令^害育^宋儒^拘定^以某^方黍^定律^未是^也
黑黍和名鈔引本州○淵鑑類函漢和
帝時任城生黑黍或三四實也

蕃名

伎備ハ黄實の義ト何リ和名鈔ハ赤黍黑黍の各々
表テ單ニ黍ト指^サシ^スの^名々^也而^赤黑^{の中}ニ^糯稷^の種^{あり}
又^蓋黍^ハ統^名アリ^テ稷^と云^ハ大小^の別^{あり}如^し
今^之例^ハ依^り本^朝食^鑑曰^黍多^種類^本邦^所用^不過^四
五^種稻^黍者^所用^少而^味亦^不佳^農間^作飯^粥而^食其^狀
似^粟而^低小^有毛^結實^成枝^而殊^散其^粒如^粟而^光滑^色黄^白
三^四月^下種^五六^月可^收七^八月^收者^亦有^其長^而短^者

名^小黍^亦稻^黍類^味不^佳又^有爪^黑黍^者此^亦稻^黍之^糯也^陸
舊^事紀^ハ保^食の^於胸^生黍^粟と^云ふ^也是^黍也^陸
今^之例^ハ依^り本^朝食^鑑曰^黍多^種類^本邦^所用^不過^四
五^種稻^黍者^所用^少而^味亦^不佳^農間^作飯^粥而^食其^狀
似^粟而^低小^有毛^結實^成枝^而殊^散其^粒如^粟而^光滑^色黄^白
三^四月^下種^五六^月可^收七^八月^收者^亦有^其長^而短^者

乃倭の前中後ハ黍キヌの國と號ナヅへる彼國クニトコ地ハ遍ヒ此種乃
 宜ナしきふるものしいつり迄あるを備前玉人トヒ子詢ヒに
 々ニよむして粟アハよりもげものぢちよヒ作シりま○
 此ノものハ形粟アハに似て抄カる法ハとふおれしきりれど粟ハ
 白茅チカヤ子カかコどカとカ利カラハ硬ユクして粟アハ穰ガラ乃ハおク稊ヒふニよレ
 免アテがコ一サとカとカ稍ヤウタカ三サ尺サばウりハ浪ナとセり夏六月ハ頃
 子ハ刈リとハ赤カとハ衆ホカノミキ穀コより早く熟ウメるウゆニよレ倭の西人
 ハ早ハ後ハとハ留ルるハよしハいつハとハ結スのハふれルやハ早ハ熟ウメてハ稻
 のハふニしハ亥ハのハ固コくハ暢ノビやハりハ類カブク並ヒよハのハふルと
三十日此時有雨強三升沖繩子赤丸粟とて粒赤くとハ熟ルとハ
記勝之書云黍者先夏至

常ノ乃ハ粟ノよりハ一ハ月ハ頃ハもハ子ハくハ出スれハぬハ按スるハ是ハ字ハ亦ハ丹アカ赤チの
 輩ハよハあハそハ○黍ハ乃ハ子ハ末ハとハりハてハ糞ダシ餅ハにハ似スるハとハ燕ハ朝ハ樂ハ事ハ
 云ハ正月ハ元旦ハ夙ニ興キ盥ヒ嗽フ啖フ黍ハ餅ハ曰ハ年ハ々ハ饒ハ家ハ長ハ少ハ畢ハ拜ハ姻ハ友ハ
 投フ筭ハ互ハ拜ハ曰ハ拜ハ年ハ也ハ又ハ酒ハとハ饒ハ耐ハ子ハ造ハとハ香ハ濃ハくハ味ハ醇アツし
 万葉集ハにハいハふハのハみハ此ハ飲ハやハるハきハびハのハ酒ハ醒サむハすハ急ハ
 夫ハ貫ス着ス婦ハとハむハ是ハ黍ハのハ酒ハ也ハ一ハ況ハ子ハ吉ハ備ハの後ハ妙ハ伊ハ氣ハ山ハの
 醴ツリ物ハとハてハ庶ハ訓ハ往ハ來ハにハ謂ハ備ハ後ハ酒ハとハるハ蓋ハ吉ハ備ハ國ハハハ黍
 子ハ宜ハきハのハ地ハ昔ハハハ黍ハ稷ハとハてハ造ハるハのハ酒ハ醴ハ何ハとハあるハべ
 しハ説ハ文ハ孔ハ子ハ云ハ黍ハ可ハ以ハ為ハ酒ハ爾ハ雅ハ翼ハ云ハ黍ハ字ハ以ハ禾ハ入ハ水ハ三ハ合
 之ハ字ハあハりハ周ハ禮ハ鬯ハ人ハ釀ハ秬ハ為ハ酒ハ書ハ洛ハ誥ハ秬ハ鬯ハ香ハ酒ハ也ハ西ハ土ハは

舊より黍とて酒釀シウクあり○下學集 崇徳天皇保

延二年天雨秬其色黒古今注云宣帝元康四年長安雨黒黍粟○藁用子八里

黍と入るあと本州子尺えり

宇流伎備宇流ハ梗稲と曰く粘り黍と云々本州

稲黍食鑑小黍本州真稔沖繩是糯黍子充飽きもの

稷本州○通雅稷又本與粟通尸稷言肅也詩云既齊既稷

名又云稭即稷呂覽陽山之稭筆談曰齊晉人謂即積皆曰

俗為之名耳正字通明稔禮記○左傳注稔者稷也郭云

今謂黍稭稭即稷也

蕃名

黍稷つ者は梁粟とニよせざるか如し天工開

物云凡黍與稷同類梁與粟同類是也又云黍有粘有不

粘稷有稷無粘と然と斯方黍は糯とし稷と稷と也と

の別一種の稷る者は糯る但沖繩真稔の如き

稍考ふべき身とくこの稷るものは西地乃いふ

一特子米ミ一ウ後ハ其物さ然らる一く造酒造醴の

法と併て其傳と失り何るがおとて代放伐遷

乃弊音樂の我に存して彼に亡の穀也按子五行大義云

稷亦是必非今之黃米而經傳所載稷黍今不可審又爾雅

疏云稔也稷也正是一物而似二物故先儒甚疑焉天工開

物云至以稷米為先他穀熟堪供祭祀則當以早熟者為稷
則近之矣通志云稷似蘆而米可食其他均適の況なく
して又爾雅翼に梁者黍稷之總名とも爾雅注に江東人
呼稷為梁等に至てハ吾邦みしてハ糯粟の一種ある
に近し夫黍稷連稱のなき尚書左傳の藉に志し社
稷配享を從來炳焉又以五穀之長とせば志しるに其物
今審み次第々々ざは疑ふべく且彼の五穀といふ者麻
菽麥黍稷を獨稻と遺にハ前子出やうりたよく而も梁
粟は漏れに於て又何の辨なきと最疑ふるし是稷ハ
梁粟の一種あると亦知るべき也因に田つり

雙に稷てふ々の姿まきたれと其れとあり一端あり
ぬハ文舟乃楫と志しるに日入くみくゆきつる神繩
人と言ふのハ波田ともおりのありつるものハ尺も
一付に只深極取島ともおりの志しといつる糯粟阿
里伊信覺島に依之傳ふ志しとつる稷粟ハ者傳ふるも
おりの志しハ餅に倣て糯稻よりを也傳ふりつる黏
氣も此よく或ハ榭葉よかハ裏茅粽に香油を香かくは
しく沙糖あんとなつたふるんハ香も消るはら
りのみえたり又さくはく志しは穀皮はむらじの飯
み炊粥に意て食たりと精粟より味もやまて久しう

何れもともなう玄山北里の秀禾あんどもなれし是の
ハ及び付らつたあの一穂ハその實も 大穂乃粟乃二
粒かけあどあたしを也此濃みと金ちんま黄ちりと種
里ちりきてそゆくまじつて文字ハいつまやと何ふ
やうて筆とりて其穂と書しつるそは穂の字也なれ
ぬとといハ沖繩ハふるく用お侍らものよとの
いつてき其ほふ二種乃粟とも吾藩ニ致し上りて
おそれハ實に氣やうに其粒も太くいつふも吾らふの
よのみハ似氣あく臨し迫ぶる稷の事とらおれいわ
げといしわ二據言つたか籍に味識偏菊高談稷契と

何るまゆらりなく稷の字ハ黍と左名や一とのや
とおれい何らりつとやうにれされハ真稷とハ
吾國の詞ハは生黍のあもあつた沖繩ハは粟の名と
かく稷ハはその同くと何れも延喜大炊式ハ稷と毛
知阿波と訓ハ又和名鈔の稷米一名秫とせよあとも
當時ハ志を唐と兼往せしやうらつてある所ありとい
ふやうとも夫后稷の時天嘉穀と像はといつもの即稷
ふして又炎農の世天粟と雨はとある粟は古に在て穀
禾の總称とし又禮記ハ稷と明稗とついで稗ハ餅とあ
はるるといへもれハ常の粟ハ鬆脆て稗とあはるう

以故今頃鈔稷と糯黍ともろの舊^{フルキ}を去るこゝの且^{フルキ}沖純
 の真^{マコト}稌^{コメ}と別てまぼくく之^{コト}を認^シつる事あり

高^{タカ}黍^キ 黍^キにして長^{ナガク}高^{タカク}

立^{タチ}黍^キ 穗^ホ黍^キ 亦^モ帚^{ホウ}黍^キ とも云^{イハレ}生^{ナマ}稷^キの

蜀^{シキ}黍^キ 齊^{サイ}民^{ミン}要^{ヤウ}術^{ジュツ} 博^{ハク}物^{ブツ}志^シ云^ク

粟^{ムギ} 木^キ稷^キ 菽^{シク}梁^{リョウ} 廣^{クワ}雅^ヤ 蘆^ロ黍^キ 泉^{セン}州^{シュウ}

籘^{テン}の網^コ目^メ時^ジ珍^{シン}云^ク蜀^{シキ}黍^キ 莖^{セイ}高^{タカク}丈^{サツ}許^コ状^{シヤウ}似^ニ蘆^ロ菽^{シク}

薯^{ショ}名^ナテユル^ルス^スコ^コル^ルニ

蜀黍



此^{コノ}もの^ノ子^コ晚^{マン}の^ノ二^ニ種^{シュウ}あり^キす^レ苗^メ志^シ高^{タカク}し^キ瘠^{セツ}地^チの^ノ宜^{ナリ}なり

諸^{シヨ}越^{エツ}黍^キ 多^タ識^{シキ}編^{ヘン}亦^モ

蘆^ロ黍^キ 檇^{ケツ}食物^{シヨク} 蘆^ロ

薯^{ショ}黍^キ 撫^ブ州^{シュウ} 蘆^ロ稷^キ 字^ジ

以暖氣乃肥スリキころ下渥シメリ乃家と好ヨクじ二月前ニケツノマエてより苗コメ五六
 寸の時トキ畠乃遍環クワリは移栽ウツシし魚イサし又是コトのミ地チんと致オモハけ畠
 ありらシしシ實ミ極キよりそのハぬハ長ナガきキじ魚イサしミ氣キと怕オソレざ
 るがハなハ五月雨イツメ乃次澆水ジホミツのハほハふハばハまハまハとハ花ハナやハと
 くハ淺シまハと却サカてハ多オホし八月ハチゲツ又熱アツクて穀カ黒クく子コ赤アカく粒ツブ蠲クワン眼ガン
 似ニてハ密ヒツと何ナニりハ莖シハハ着ツクよハ何ナニとハ庭ニとハ多オホし種タネハハ帯オビよハく
 味アジ但タ中ナカ土ツチ以下以下ハハ栽カ一ヒトくハ以ヨリてハ味アジ甚シ枯カ瘦ヤス者モノありハ是コト
 種タネ也ナリ○一ヒト種タネ早ハヤものハ微オホ早ハヤく穀カ薄ウスく子コハ黄ワウ少オホして淺シ赤アカ
 ありて粗コ大オホふハとハ多オホくハ熱アツクことハ以ヨリて農ノリ家カ利リとハ○凡オホ種タネ
 るよハ畠稻ハナの種子タネとハぬれハくハまハとハ一ヒト箭ヤてハ魚イサし一ヒト畝ウツ種タネ

乃熱アツクころと切キり實ミ成ナ熟ジュクし乾カく収トめハし夫ツレより二畝ニウツ三
 畝サンウツと轉マ換カ出デるとハ六ムかくハのハ六ムくハ収トめハるハ夫ツレゆハと換カて利
 得トクあり勤ツメてハ比ヒるハ魚イサし○食クまハけハ實ミと春ツキて穀カとハさハりハ魚イサと
 ありハくハ魚イサし又磨ウスて粉コとし穢フエ水ミヅとハ敷イ日カとハさハしハ喜ヨ友
 ともハり餌ヱとし煮ヌて喫クいハ或シ又シ湯ユと造ツクりて黍ヒとハまハくハお
 風カゼしハまハりハ皆オホ稻コメ梁ヤの補タ助サとハまハし荒ウラ斂シの積ツク貯ルしハ魚イサし
 ○粉コとハまハし油アブて食クハハ痢リとハ治ユとハしハと

豆黍マメキビ此コノのハ子コ粒ツブ大オホ大豆トウモロコシのハ如ナドもハまハり
 珠黍タマキビ多オホ識シ今イマ奥オホ及ツキ北キタ陸リク乃ハ稱ナド呼ヨぶハ也ナリ
 唐諸越タウシヨク本ホ朝テウ食シヤク鑑カン本ホ邦クニ俗ヨク以ヨリ形カタチ大オホ異ヒ常ニ者モノ冠カウ
 外國オウゴク之ノ名ナ而シテ呼ヨぶハ之ノ此コノ非アラ某ナニ國クニ之ノ産ノ唐タウ黍キビ



玉蜀黍

南蠻黍高麗

薩麻黍

是甘諸南氏の古く其始て中國

黍之類是也

黍といふ今蜀黍と呼て唐黍とせりハ誤也蜀

高麗黍

黍ハ本おのり々斯邦一種の物ありといふ

玉蜀黍

玉高粱

郷麥

御麥

戎菽

番麥

以上

譜 包子米 盛京 通志

蕃名

此の三種あり或云舶来乃ものにて固産係也

二月より種て七八月より熟ぬ子の色は紫赤と白黄あり

紫赤あるハ穀に黄白ハ種を炒折るとも子ハ紫赤

と佳し(けもの苞より頭髪を出し初ハ紅み老てハ

赤黒くあるを幼出と嬰兒婦女と同て飯ふ形上己乃

縷^{ヒナカメ}人^ニの肖^ニなきはや焙^{イヒ}て食^フふ又鍋^ニ入^ル燂^{ユツ}炒^シハ珠^{タマ}粒^{ツボ}脹^{フク}拆^{サケ}
て梅^{ウメ}花^{ハナ}ふん^ニあり又子^コと炒^{イリ}磨^{スリ}て沙^サ糖^{トウ}と和^{ヒキ}て菓子^{コシ}とふと
る^ル或^ハ飯^{イハ}を炊^{カレ}き酒^{カウ}媒^レる^ル海^{ウミ}じ^ク或^ハ焼^{ヤク}耐^ナる^ル造^{ツク}る味^{アジ}香^{カウ}し莖^シ
ニ汁^{シユ}ありて微^ヤ甜^ニし○肥^コ地^チに栽^カき^テ一^{ヒト}根^ネより苞^{ツト}実^ミ三五
箇^{コノ}とむとふ瘠^{ヤセ}土^{ツチ}ハ二^ニ三^ニ苞^{ツト}出^デても一^{ヒト}苞^{ツト}の^ノと登^ミ実^ミては
ハ熟^{ミイ}ら^ニも栽^カき^テハ圃^{ハタケ}の端^ヘ宅^{ヤシキ}の郭^{クワク}ハ極^{キョク}る^ルし^シ土^{ツチ}カ^クと拔^{ヒキ}
て膏^{コウ}壤^ニと瘠^{ツカ}か^クとも^ノの^ノま^マと○貯^{ツケ}る^ルま^マは苞^{ツト}皮^カと去^サりて煎^{ツク}
至^マへし年^{ネン}と越^コて換^カへ^テ苞^{ツト}皮^カの^ノま^マく^クあ^ハりてハ煎^{ツク}て餅^{ヒシ}り
○沙^セ石^シ淋^{リン}痛^{ツク}ま^マの^ノひ^ヒご^ゴさ^サは^ハ此^{コノ}根^ネ葉^{エフ}と湯^ユに煮^ニし頻^{ヒシ}に用^ユ
れハ驗^{ケン}ありと云^フ○俗^{ソク}ハ此^{コノ}の^ノ根^ネ株^カハ高^{タカ}鬚^{ヒゲ}と附^{ツク}て節^{フシ}よ

已^マ出^デれハ嵩^{ソウ}年^{ネン}將^{マシ}ハ大^{ダイ}風^{フウ}吹^フふん^ニぐる^ルの兆^{サウ}と^トあり

成形圖說卷之十九終

成形圖說卷之二十

目錄

穆ム 稗ヒ 胡コ 麻マ 薏苡ツ 甘藷カ

成形圖說卷之二十

成形圖說卷之二十

五穀部類 糝

比

延古事記○書紀等並糝字と填む凡上世ハ類とて
糝米と命又故糝粟

糝米と命又故糝粟
糝粟と命又故糝粟

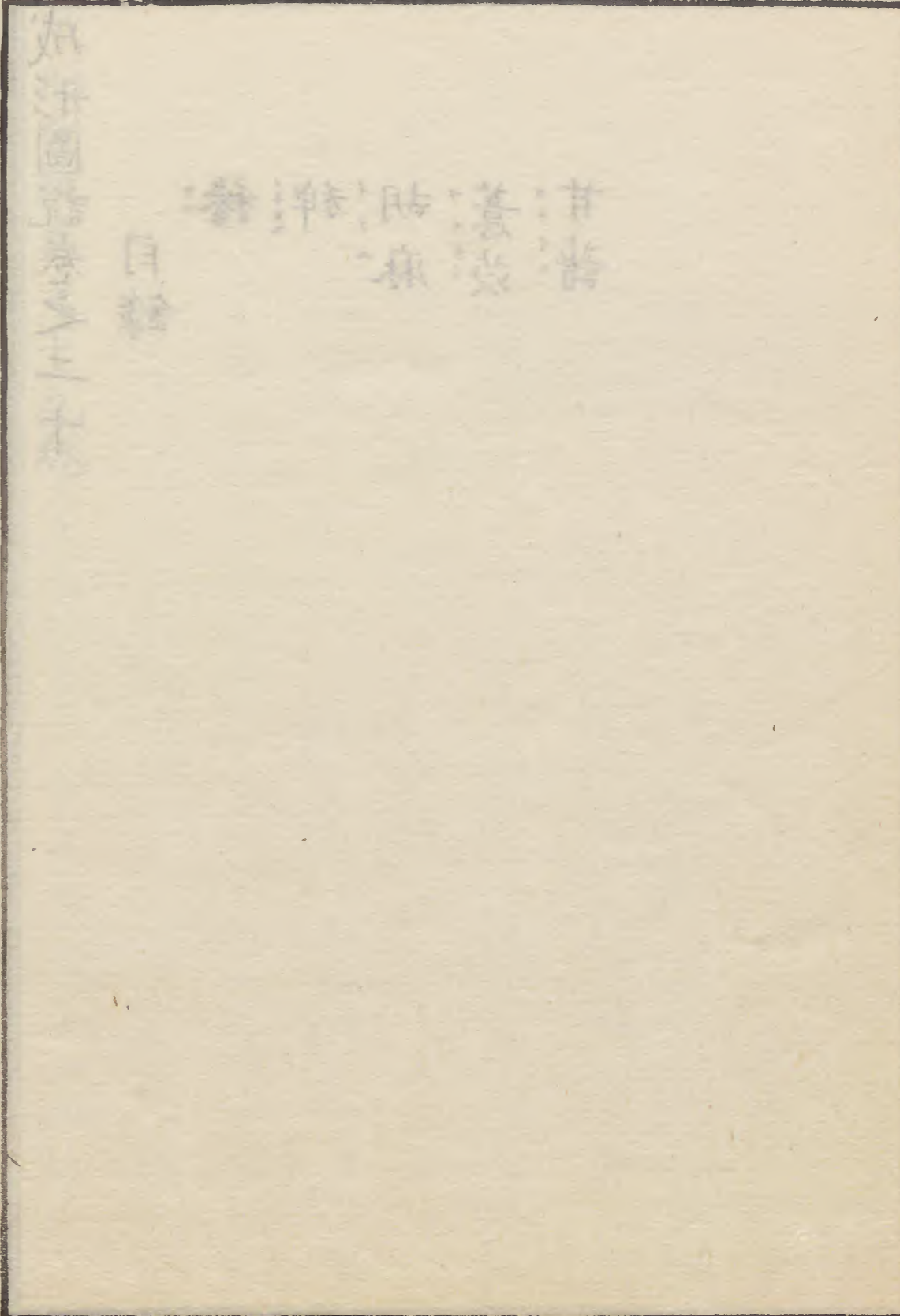
糝粟と命又故糝粟
糝粟と命又故糝粟

糝粟と命又故糝粟
糝粟と命又故糝粟

蕃名

此之水陸乃二種也
此之水陸乃二種也

成形圖說卷之二十





稗

稗

えられしゆを我りりり即このものあり○信濃
 岩村田八國乃高子タカキトコよそ六月麦ムギと刈あむ七月僅僅に稲穂
 出たしつとと間とふく秋霜アキに傷イタむそ類ホノミ實と結結ひ
 づきみやあり故に水稗と比比り按按に救荒本草稗子
 生水田中及下溼地内苗葉似稻稻但差短短稍頭結穗結彷彿稗
 子穗其子如黍粒大茶褐色味甘採子搗米煮粥粥或磨磨作麵
 蒸食亦可是名稗稗○陸稗陸ハ山野山此樹木と燎燎夷夷て生
 本本反反と肥肥とて此の種と播播と也字鏡鏡ハ所謂不耕而種
 と焼焼蒔蒔とも荒荒蒔蒔とも云即是是と日向諸縣諸郡郡以北肥後
 五家の莊よむてハ連山波濤のぶく絶陰狹隘隘とく

稲田と佃がく山氏時伐うか叢林と伐火と起て
其反とあると流乃移子伐播植こもを収く周歲の獲
獲子伐俗呼て木場移と云凡伐の山林よ入て材は
笠葉とハ蒲突あり蒲突乃葉管の似るをて葉笠と
はみげ笠と名く而して移子の葉の管の似るを移
子と古婆比延按宋張湜雲谷雜紀云沅湘間多山農家
と唱也いり
惟植粟且多在岡阜每欲布種時則先伐其林木縱火焚之
俟其成灰即種于其間如是則所收必倍蓋史所謂刀耕火
種也寒郷瘠土の地人智乃施と和漢一轍も出るるが
たらし而も今日都會城市の者帛と衣糧と食の春秋の
交日乃蚕莫と視て天年伐度るもの艱難とあ道乃お

れしかるけり窮民の告かき者比々あり○秋移ハ芭
多く猪鹿猴と食む故山農好て之と種まを○凡移稗
ハ京畿年蓄積ても蛀の患あき良穀也續貫行日相お是
柄郡嶺村の者田所より早遊の藝あれ物の風土の移と麦跡を植
るよ妻と刈おくれて植ぐらし其申移乃苗婦さの節
立てハ杵これぞ今二日三日節をぬやうみとおひつ
ども長かくりくる苗あれを延るよほひ節をくあり苗
とうしなふおと年くまて困みと成者と一へくるハ
本菜ととに應おにカホ道新日お照されてまのぶると
のあれハ農よ妻と拂もく苗をりて長止ふべしとい

印しおとに二三日ケ留貯をセバもくひあつて果して
 苗長ど節立ざりき量もゆり物よと用ひしためし
 してこれよりまをりおしせ移をくと極るらるる如牛
 よ眩濁られらるるまといひあり○延喜民部式曰
 稗子尾張國五石又武蔵風土記赤坂莊貢麦稗等とあり
 即稗子ふして貢の負數と定りらるるあり

野稗

狗稗イヌヒエ並ニヒエ稗子ヒエ子コ似ニてテ赤ニのミと
 稗ヒエ音ヒエ敗ヒエ○和名
 早稗ヒエ救荒本艸○蓋水稗
鈔引左傳

蕃名ハアフル

黒稗クロヒエ 艸クサ稗ヒエ並ニヒエ小コ状カタ小コ就ツて
 雀スズク乃ノ粟ムギ多タ識シ
 稗ヒエ 英ヒエ爾ニ雅ニ 烏カ禾コ 細目コメのノ蔵クラ器キ云ク稗ヒエ有ル二ニ種ニ一ニ種ニ黄キ白シ色シ
 禾コ 也ヤ一ニ種ニ紫ムラサキ黒クロ色シ似ニ也ヤ有ル毛モウ北キタ人ヒト呼コト為ス烏カ

蕃名

稗子ヒエとト稗ヒエのノ形カタ状カタとトいハバハ稗ヒエ子コハハ苗コ莖カ稻イネ子コ似ニてテ子コ
 實ツブ大オホちチとト稗ヒエのノ苗コ莖カ粟ムギのノ類ルてテ短ミくク子コ粒リとト亦ヤ小コ也ヤ是コト也ヤ
 てテ穉コふフしシ救荒本艸云稗有ル二ニ種ニ水稗ミヅヒエ生ナ水田ミヅノ邊ヘ旱稗コノヒエ生ナ
 田野タノ中ナカ稍サウ頭カビ出デ遍ヒラカ穂ホ結ムス子コ如ニ黍コ粒リ大オホ採ツク子コ搗ウ米コメ煮ニ粥カシ食シ蒸ニ食シ
 尤モト佳シ或シ磨テ作ス麵コメ食シ皆ヨロシ可シ按ス野稗ノヒエ黒稗クロヒエハハ今イマ亦ヤくク自然シ生ナのノ

宜しりらざ
 の実言也
 胡麻 別録云○本艸之辨駁甚夥有以莖辨者有以葉辨者有以角辨者五符經云巨勝即胡麻而東坡與程正輔書云胡麻即是黑脂麻二說甚明不必再別義也但近地者未必如是之能當以訛傳訛不可勝言更有以黃麻子及小胡麻遂竟稱巨勝以訛傳訛不可勝言更有以黃麻子及小胡麻誤之又誤也陳嘉謨蒙筮又引出胡麻一條又云有黑白二種其能亦延年補髓益氣長肌補虛休糧豈非重出乎蓋白者名油麻也後之學者留心致辨可也
 巨勝 本艸經云李東垣必讀載黑脂麻
 胡麻 是也後之學者留心致辨可也
 麻 即芝麻在胡地甚大入中
 國 歲減小至今一名巨勝
 交麻 拾遺油麻療食
 烏麻 千金方又云胡麻以
 次髓 本艸經云為彌以烏者正
 油鼈子 仙種方杏
 黑荏子 本艸經云本藥
 白麻 嘉祐
 油

子苗 救荒
 青蘘 本艸經
 麻藍 本艸經
 霸王鞭 群芳譜生脂
 蕃名 レインサート
 吳麻 了ふ名上子ハケエド式令の頃ハケ用ひられて
 奉膳 あり供一き新撰字鏡ハ青蘘ハ胡麻葉ト訓され
 いとよく胡麻の如ハ河りあらし今尚山野自生のもあり
 河りて実と成ヤリ後ハ外域より貢まらるが子も大きく
 巨勝 ありとつり 類みて且其功能子の從よりて食
 料子 用ひしや西土も如斯ど河りぬし素問經云麻
 麥稷黍豆為五穀麻即今油麻中國有四稜六稜者張騫從
 外國得八稜黑種故又曰胡麻是始より麻了ふ者ありし

と胡地より獲しつを黒く子太切りしむくに胡麻と名
ありあり天工開物云胡麻即脂麻相傳西漢始自大宛來
古者以麻為五穀之一若專以火麻當之義豈有當哉竊意
詩書五穀之麻或其種已滅或即菽粟之中別種而漸訛其
名稱皆未可知也考之又大和奉州上世五穀の一
とせし麻ハアサノニ也故麻といふとハ胡麻ハ胡國
より來るとあるに疑つるは大麻の實も穀ふかして食
ふべきといふ凡々の書中ハ本邦從來所有の物以
動をすれハ舶來の種ふかせるもありんば若くは
そ又水州綱目穀部第一ハ胡麻と載て稻のたときハ

麦苦蕎麥の下條ハ其序次の錯置や東壁の窓ざ
るよといふしそもく彼土のハ一より稻種のよかざ
はハ因襲せしや夫胡麻の食料における僅ハ釘品煎
論の冒に云はれ他晨夕の糧と云はれハ百一
かし況や苦蕎麥の輩ハおてハ馬牛此芻秣と云は
本州何為ぞや之は福米の上ハ稗ハ若胡麻と云て五
穀の第一と云はハ猶身毒の牛糞と香氣の上等ハ麻
と云と彼土の太古民無粒食茹毛飲血といふや
國よりハびりも遂にかくのおとさ傳へ言ふし胡麻
と云て冠百穀等の説ハ經常用と云とせらるもや

ハ過華ありどや○胡麻ハ方莖長葉秋のはじめ白花と
彩実と結ぶ多能と油胡麻とつゝ又房ハ二稜四稜六
稜ハ稜の異り多ありハ稜のと似て車胡麻と唱つり
他ハ土地の多に因りるも多し○種ハ遅早の二あり早
ハ三月遅ハ四月種つし皆苗亢早と畏と故に多くハ
粟と同く下て見その粟穰ハ扶られ偃側ざるの謀と
やハ秋分次ハ變熱て刈時ハ粟とお似し或ハ水田の畔
ハ指蒔て竟て芸滋と施ざるもよく生茂正子と收みハ
一把つて束收乾して房とわりて擇むり○葉と餌ハ
黒と用ひ油と取ハ白と佳と云周白榨油の多あり云ハ

蒸炒どて取とつ即香油あり葉ハ入べしひりハ今
の鬚附おし香油と玄及の液と煙ハ能髪と烏く長くし
又光艶と生むじ○麻油ハ炒熱て熱うち油と壓出本
州ハ生油と有り生ハ生酒か此油ハ山城山崎の製と天
下の名物と云今ハ五畿諸州皆あり○麻油滓と稻餅等
ハ和つると胡麻餅と云み多く糝ハ本州ハ麻枯餅又
麻枯餅麻紙と云ハ此云胡麻油滓あり○瘍科の膏
葉と煉ハ皆香油あり○密教僧の護摩と修ハハ香油
と用て火勢と助むじ○香油ハ燈とありて冬と凝らど
氣味甘平無毒○胡麻と服ハ毒魚狗肉生菜と忌○海螺

田螺の乾し胡椒と合食ハ合食バ肉腫脹ハ肉腫脹あり又瘡後ハ瘡後炒胡椒
 と食すれば再発ハ再発妊婦三月ハ妊婦三月以前多食ハ以前多食ぶくどハぶくど胎石墮ハ胎石墮
 以○主治五内ハ五内以補ハ以補氣力ハ氣力と益大ハ益大小腸ハ小腸以利ハ以利寒暑ハ寒暑耐
 風濕ハ風濕の氣ハ氣と逐ハ逐産後ハ産後羸困ハ羸困と治ハ治以蒸食ハ以蒸食ハ風ハ風と生ハ生せど生ハ生
 て嚙ハ嚙小兒頭瘡ハ小兒頭瘡塗湯ハ塗湯煎ハ煎し惡瘡ハ惡瘡及婦人ハ婦人の陰瘡ハ陰瘡と浴ハ浴
 れハよし○野葛ハ野葛の毒ハ毒に申ハ申ころまハハ野葛ハ山野ハ在藤
 節ハ節高く節ハ節の所ハ所毎ハ毎葉ハ葉ニ葉ハ葉一つハ一つ付ハ付て着ハ着の葉ハ葉のハのおどハおどく
 厚ハ厚て先ハ先のりハのり節ハ節のハの留ハ留にハに花ハ花并ハ并くハく細ハ細みハみてハて黄ハ黄ありハあり蔓ハ蔓と切ハ切
 以ハ以誤ハ誤てハてこれハこれと食ハと食ハハ人と體ハと體をハを救ハ救はハ大毒ハ毒のハの急ハ急もハも香油ハ香油を
 人糞ハ人糞と和ハと和して飲ハして飲ありハあり急ハ急方ハ方○諸野菜ハ諸野菜の毒ハ毒及革ハ及革の毒ハ毒に
 中ハ中ころハころに香油ハ香油と多く飲ハと多く飲ぶハぶし又凡ハ又凡の中ハの中毒ハ毒と通療ハと通療以ハ以○瘡

小て厥つハ小て厥つ、氣ハ氣うハうすハすくハく少ハ少冷ハ冷昏ハ昏悶ハ悶て人事ハ人事省ハ省ぎハぎたハたまハまハ生清
 油ハ油一ハ一盞ハ盞を用ハを用て喉ハ喉中ハ中にハに沃ハ沃まハまハ須臾ハ須臾して風痰ハ風痰と逐ハ逐出て瘰
 得効ハ得効 ○乾霍ハ乾霍乱ハ乱吐ハ吐下ハ下ずハずるとハと香油ハ香油を茶ハ茶越ハ越まハまハ飲ハ飲ハ吐
 方ハ方後ハ後愈ハ愈衛生ハ衛生 ○蜘蛛ハ蜘蛛咬ハ咬まハま烏麻ハ烏麻油ハ油を鉛粉ハ鉛粉と和ハと和泥ハ泥のごハごとし
 て塗ハ塗門ハ門燥ハ燥ハ復ハ復ぬハぬるハるべしハべし方ハ方千金ハ千金 ○百出ハ百出耳ハ耳を入ハを入ころハころ時ハ時口ハ口は
 牙ハ牙言語ハ言語と禁ハ禁せハせ紙ハ紙を以ハを以て耳ハ耳の竅ハ竅を塞ハを塞出ハ出入ハ入ころハころ耳ハ耳を空ハを空
 麻油ハ麻油をハをて耳ハ耳竅ハ竅一滴ハ一滴入れハ入れハ或ハ或出ハ出或ハ或死ハ死ハ傷醫ハ傷醫 ○巴豆ハ巴豆の
 毒ハ毒と解ハと解まハまハ生油ハ生油を飲ハを飲又鯨鯢ハ鯨鯢の毒ハ毒解ハと解まハまハ麻油ハ麻油を以ハを以て灌
 ハ毒物ハ毒物と吐ハと吐出ハ出して瘡ハ瘡選ハ選百ハ百一ハ一 ○銀杏ハ銀杏の毒ハ毒中ハ中まハまハ香油ハ香油を飲
 べしハべし主ハ主百病ハ百病 ○飲食ハ飲食の毒ハ毒を鴈砂ハ鴈砂四兩ハ四兩真香ハ真香一斤ハ一斤瓶ハ瓶の中ハの中に浸ハに浸



異種

薏苡

置^{オキ}毒^{ドク}中^{ナカ}了^{マツル}時^{トキ}油^{アブ}と少^{オホシ}許^ク飲^{ノム}べし久^{キウ}油^{アブ}と愈^ユ良^{リヤウ}と

凡^{ソノ}瑞^{ズイ}竹^{チク}○男^{オトコ}女^{メウ}共^ニ中^{ナカ}年^{ネン}二^ニ毛^{モウ}甘^{カン}ハ^ハ黑^{クワク}麻^マ油^{アブ}五^ゴ合^{カウ}二^ニ胡^コ桃^{トウ}

仁^ニ油^{アブ}桃^{トウ}仁^ニ油^{アブ}雞^キ子^コ油^{アブ}各^{ノノ}一^{イツ}合^{カウ}二^ニ拌^{マゼ}て南^{ナン}燭^{ソク}子^コ百^{ヒャク}箇^{カウ}枸^コ杞^キ葉^{エフ}百^{ヒャク}

斤^{シヤウ}と同^{トウ}煎^{ケン}して磁^チ器^キ子^コ盛^シ口^ク紙^シ緊^{ケン}封^フ土^ツ子^コ埋^マおと百^{ヒャク}日^{ニチ}貯^チし

先^{マツ}白^{ハク}毛^{モウ}と拔^{ハク}て其^{ソノ}痕^{コト}子^コ油^{アブ}と毛^{モウ}孔^{コウ}子^コ傳^{デン}ハ^ハ後^{ノチ}二^ニ生^シ毛^{モウ}黑^{クワク}本^{ホン}朝^{テウ}

通^{ツウ}須^{シュ}多^タ麻^マ古^コ語^ゴ拾^{シツ}遺^イ○粒^{リツ}珠^{シュ}あり粒^{リツ}ハ^ハ食^{シク}ふ

玉^{ツク}通^{ツウ}志^シ新^{シン}撰^{セン}字^ジ鏡^{キョウ}○通^{ツウ}志^シ通^{ツウ}志^シ多^タ麻^マ和^ワ名^ナ鈔^{テウ}○今^{イマ}言^{イハ}珠^{シュ}粒^{リツ}

唐^{テウ}麦^{マク}朝^{テウ}鮮^{セン}麦^{マク}川^{セン}穀^{コク}に^ニ係^{ケイ}る

薏^イ苡^イ解^ケ蠱^キ實^{ジツ}以上^{イジョウ}本^{ホン}州^{シュウ}○時^{トキ}珍^{チン}云^{イハク}薏^イ苡^イ葉^{エフ}似^ニ蠱^キ

芭^ハ實^{ジツ} 藟^{レイ}

米以上別録○陶氏作籬珠 回々米 屋茨網目子ハ苗 艸

珠兒 西番蜀秫 贛々珠 菩提子 川穀以上救 薏

珠子經圖 草曾目輟耕 米仁本艸 薏米仁品字 苡仁

遵生 有乙梅採取 玉珠附方 葡蘆莖葉名 苡仁

八牋 蕃名シニテイヲビスタラアニ

六のきの三種あり○一種ハ唐麥と云者其粒細去く皮

うましく粘粘て糲米乃如し年々春分乃次穉子を蒔く苗ハ

黍黍子似て高三四尺五六月枝毎に茎ハ抽て穂と成し實

と結ぶ九月霜墮て落刈りて實と取取りて於て貯す

より米と為るハ蒸乾し又雷盆乾乾すと風風て磨磨け白

米と為ると粥と為ると粥なりて食ふ性温氣を好む好む嫩苗

出ると時摘摘まり或ハ節とわけて拔拔け食食しふかゞされバ

實少し凡宿根宿根より生ハ穀穀望望く子少しなりと種子と

下下の生乃蒸蒸きあり○一種者根根或ハ子子落ておのれと

春苗春苗すゝるハ幹幹高高三三五尺唐麥唐麥よりて葉葉大なり葉葉此

種種に赤赤赤赤色乃實實と一粒つと結ぶ穂穂より粉粉乃乃とと成

花花と盛盛枯て後後線線二三條二三條残り線線脱脱去て實實熟熟ぬ小小児児輩輩此

實實小孔小孔して線線を穿穿し念珠念珠とと成成す種種ハ肉肉の仁仁少しあり

よりと粥粥と炊炊き飯飯より作り下下 本艸本艸の川穀川穀よりより圓

形形子子據據り凡凡救荒救荒の川穀川穀と ○一種亦亦おれおれくく宿根宿根より

成形圖說卷之二十 十二

生て実^{ハエ}大^ト子^コ多^ク穀^コ多^ク味^ミ淡^ク形^シ子^コ理^スありて思^ス実^{ハエ}多^クり然^ル
 ども肉^ニ乃^チ仁^ニ多^クきり^ハの^ハ多^クし遇^フ者^ト炊^キ食^スふ^ハと^ハ培^フと^ハ此^ノの
 二^ハ雌^メ雄^{オス}あり^ハの^ハ似^シり網^ノ目^ノ時^ニ珍^シ云^フ薏^苡苡^子一^種圓^ク而^シ殼^厚
 堅^キ者^ト昂^貴菩提^子也^{ナリ}其^ノ米^少即^チ粳^米也^{ナリ}但^シ可^ク穿^テ作^シ念^珠經^ノ數^珠亦^{ナリ}
 呼^テ為^ス念^珠又^チ玉^機真^藏論^云真^心脉^至堅^而如^シ循^薏苡^子累^々
 累^然と^云ふ^ハ此^ノの^種即^チ自^然乃^チ通^志珠^也○葉^と米^とま^ませ^飯
 飯^と和^シ餌^と作^シて^換へ^テ料^理方^多し米^とま^ませ^飯と^油
 り^ハ香^カ早^ソ稲^子多^クあり^ハ又^チ茶^城湘^子此^ノの^葉少^許
 如^シ此^ノ仁^多清^く味^幽なり天^工開^物云^フ近^代燕^京則^チ以^テ薏^苡苡^子
 仁^為君^入麴^造薏^酒^大和^本州^曰溼^中て^面小^瘡虫^有効^也



水菫^{ホケ}諸^{イモ}



唐芋

是乃俗の通称なり。加良とハ西土と指せり言ふて
書紀万葉字ニ漢とト唐とトあり又廣く諸蕃の國々
とト加良といつり韓域とのこいふとありハ漢書
ハ此の部の本州綱目ハ柔滑菜の部ニ出シ農政全書
ハ蔬部ニ收メ蓋是躑鴉の華にして其名ハ唐芋と
呼ぶのハ宜しく芋類ニ列ぬる者ぞ然ども凡西南諸
國の地此のの民間ニ利益あり者哉とハ同し通
ニ玉黍薏苡の上ニ出されハ今之と五穀の部中ニ附入
如き既ニ穀部ニ序メ此園より南方暖土に於て稻米
と其徳と醜も
琉球芋 筑紫中國芋の俗名也。○琉球芋てハ單伊毛との
凡んく書更しと明ハ洪武中流求の字と今
あつりて呼ぶるの此 赤芋 籾多く筋多し味と芳
條の品目ハ後ニ具列ス 白芋 汁少く肉脆く 凡計 此芋の皮淡
太く且多りハ 味佳く肉脆く 凡計 此芋の皮淡
ハ其利最あり

成形圖說卷之二十

花乃香あり色は白くゆゑといつり芋也 波仁須 此色亦凡計
らでと本極色と稱ふとのまし 波仁須 此色亦凡計
て物同し波仁須亦本極の花の色と稱ふ名を万葉にて收
は色乃薺遷居をきとありハ是みてそぬに轉して波仁
頃とあり今波武須と稱ふ一記ニ蕃薯也 二皮 此芋
ハ判事ふとの物とあり 二色 此芋の半ハ淡紅半 八里
皮ハ重剥て儂下りも 二色 此芋の半ハ淡紅半 八里
皮ハ重剥て儂下りも 二色 此芋の半ハ淡紅半 八里
半 此芋の味の最極なり 今波里ふし 度奴久和
宇 此芋の色赤白く塊とありハ甘薯と登武と稱ふべ
これより傳へり 母ニ海見島にて甘薯と登武と稱ふべ
つもの魁 魁 ぐち 又ありハいかにあるべき
人參芋 長くして太し色ハ蒼く味よし是芋ハ二色
山伏芋 芋 共ニ芋葉の形と
甘藷 本州 甘藷 南方州 番薯 五雜組○大和本州ニ其
綱目 木狀 番薯 諸番薯と二物とふした

甚ど保よして此種のいまど唐山よふき時ハ甘諸と云
 廣志綱目等足お明末ふ初て関中子種之甘諸との
 呂宋交趾より來る者なり又番薯と名く亦來ハ羣芳譜
 南産志等並ニ蕃薯の字加ハぬ又金薯傳習錄ハ木狀ヤ
 引て甘薯ハ即蕃薯也此ハ一物の確證也
 此ハ心類編嶺外多諸間也
 諸有發深山邃谷而得者紅山藥全農政朱薯閩書南
 三家薯考山諸農政全書云諸有二種其一名山薯閩
 廣故有之其一名番薯近年在海外得此種又云薯類與山
 諸顯是二種與番薯為二種皆絕不相類又甘薯疏云閩廣
 諸有二種一名山薯一名番薯此等の說ハ由て農業全書
 其薯而山薯と云ふ山薯番薯といハ然ハ木州從新
 今乃此ニ據て提出ス金薯紅薯地瓜傳習錄
 蕃名
 此との吾 邦子ハ一ハは既ニ慶元の改むハ呂宋等の

諸蕃より吾藩此唐湊^{カラミト}津^{即坊}五市^モ時齋^モし其し中ハ
 いはつる^{ソノカミ}吾藩の僧文之著者南浦文集呂宋國
 子贈書牘の中に彼國の高船贈信交易セハと云
 洋ノ載^ルり^ル當時の番舶吾 邦子入貢セハ多ク川邊
 郡坊津^ノ輻輳セリ^ル吾^ノ唐^ノ湊^トハ^ハい^ハる^ル記^ス是
 かの唐芋^トも^ハい^ハる^ル我^ノ俗^ノ海外^ノ地^トも^ハい^ハる^ルて^ハ加
 良^ク傳^ハり^テ故^ニせ^リし大和本州和漢三才圖會等の書
 ハ元禄中^ニ撰^シものあるに甘薯ハ先年より薩摩長崎
 へ移ると記セる是も元禄よりといふも西^ノ偏^ニハ
 う急^ニ始^メる^ル見^ルる^ルし且吾沖繩島ハ儀^ノ間^ニ親^シ雲^ノ上^ニ

西土へ渡りて福建より持帰りて種子をゆしとて久基は後
元禄十一年戊寅乃威中山王カネより甘藷一箱と藩の大夫
種子島久基に贈りて室老西村果之命して久基の
采邑熊毛郡種子島石寺野といふ所を種子をゆしとて生
家乗に載せりて按儀同親雲上のお土へ渡りてこのか
き地城親雲上元禄の初年とおもはるる所の北京とす
取も月よりて國をまうて歸りてのちをいして尋ねてけり
汝をもよふ今ぞまおとのわが御北のみを志とせり
徳儀間とこの頃を清るは海をさされは元禄十一年
甘藷を種子島に送りしは海をいもは琉球のち極ふ
やしとてとすむ今も沖渡りしとす琉球のち極ふ
の沖渡り無ののゆればは琉球のち極ふ
のち極ふと食して清みるありけるは臣下らち此色
の希見とすとおもひて記すありけるは後久基は
おもはるるに記すに附て言つり又薩摩頼主郡山川乃思水チユカミツ

あまの稲穂と懸ゆるんりのゆりてさきとるもな
おはやくと歎れりとの王夫人ははぢがかり乃思女は
ことゆき今更におもひのゆるりけるらとてゆりけるけ
事ハ稲の事記せし後よち又薩摩頼主郡山川乃思水
り利誘つとす者寛永二年乙酉のとし沖渡りよりと
ありて極るてとて今も山川の者ゆり継り利誘つら
事と徳とせらりゆり此等の説とゆりて此ゆりの始
呂宋國よりおも持渡りてゆりて唐芋と名をせしと
らるる琉球より始渡りてゆり琉球芋とていふあら
ゆるるに志とすといふ琉球中國よりては存藩の恥とて琉球
より登りていふは浪蕪一徳をすりて此種子琉球の芋

ありて付く弘わしより琉球芋此名と負せしるあり
し和漢三才圖會曰甘藷イモヤクイモハ琉球國多有之薩州及肥州長
崎亦多種之と載て存外國より舶傳せしありいと
る也按子甘藷ハ明の李時珍の綱目と著述の時までハ
いまだ唐山のありき故に異物志艸木狀と引て出
交廣南方珠崖之不業耕者惟種此芋の記ありて現は
りりといふと本綱成て後十六年ありて明の萬曆廿
二年甲午のとし閩人陳經倫ありて其父振龍嘗て呂
宋國の商のせし朱藷の多きを以て陰買して持歸り
及び其種法と傳へしと時の巡撫金學曾といひり者

子イモ獻^{イモ}と初て國中子種廣めて大に歳荒と救ひ志うは民
其利と徳とて金薯と名を蕃國より傳へばとて蕃薯
とと稱せしあり是 本邦ありてハ 後陽成天皇の文
祿三年の南蠻傳に後百六十年の記ありて清の乾隆廿年
乙亥の頃乾隆廿年ハ斯方經倫五世の孫陳世元其男雲
相次て鄆縣膠青豫等の州に種しよと漸く東浙の地
轉一政しつる其始末ハ金薯傳習録に詳しとされバ
西土へ流傳せしは甚近し○享保十七年壬子の歲海内
大に饑饉し諸州饑莩多しゆり本藩ハ甘藷と貯ふる
子イモ頼てうゑて此のくふと成免とるは是 命ありて

江戸より上りれば安房上總より地を種させしむり一
 薩麻芋と留りりりといつて青木敦書乃著せりわれ
 番薯ハ享保十九年養生所乃墾地を試作せし後東
 の島より渡りしりて貯やうりて其種子をりし
 に薩摩より渡りて行換と云くやうく大正他は
 習ひとりわり其後八丈島より暖地より九月末甘藷
 の蔓と採り岸陰より翌春芽を出し茂と云四月より
 一穂く塊の重一貫同地の太く浅きり又青島より
 ハ四時種タツジ種と云ふは今海南の暖地より限り北
 城の國まで盡く種子栽培の法と云く遠く種て早く

堀取戸大は民食の助也成る金學曾々海外新傳より東西
 南北無地不宜と云ふはと證を登し農政全書に嘗
 蔵して種と留り北東諸邊を種種をしつて
 此方豈種をりて其の國よりや大底西偏諸邑下
 の民よむては社祭等の外平常此諸邑を種穀を種へ
 倉にて窮年饑歲を必此に頼て命を全し其の
 し味より諸海内を播布せり天下殆ど飢民あり
 常々食ふものを壽百歳を祈りて八利十三勝
 なり彼國の書に頌美せり西土為熱乃地あり
 事ふりぐりりく虚言をばわらざるあり○此諸春暉新

芽^{イメ}成^{イメ}後^{イメ}次^{イメ}其^{イメ}茎^{イメ}紫^{イメ}色^{イメ}成^{イメ}節^{イメ}比^{イメ}漸^{イメ}く^{イメ}蔓^{イメ}成^{イメ}多^{イメ}し^{イメ}節^{イメ}阿^{イメ}と^{イメ}節^{イメ}地^{イメ}
より^{イメ}着^{イメ}て^{イメ}根^{イメ}類^{イメ}成^{イメ}生^{イメ}し^{イメ}地^{イメ}は^{イメ}冷^{イメ}ら^{イメ}ず^{イメ}然^{イメ}ハ^{イメ}葉^{イメ}と^{イメ}茎^{イメ}の^{イメ}葉^{イメ}を^{イメ}載^{イメ}菜^{イメ}
の^{イメ}葉^{イメ}を^{イメ}似^{イメ}く^{イメ}如^{イメ}阿^{イメ}李^{イメ}又^{イメ}三^{イメ}尖^{イメ}成^{イメ}成^{イメ}して^{イメ}新^{イメ}牛^{イメ}子^{イメ}菜^{イメ}を^{イメ}似^{イメ}く^{イメ}れ
阿^{イメ}と^{イメ}南^{イメ}方^{イメ}の^{イメ}暖^{イメ}地^{イメ}を^{イメ}く^{イメ}た^{イメ}秋^{イメ}淡^{イメ}紅^{イメ}花^{イメ}を^{イメ}開^{イメ}く^{イメ}夕^{イメ}顔^{イメ}此^{イメ}形^{イメ}を^{イメ}相
同^{イメ}し^{イメ}も^{イメ}根^{イメ}塊^{イメ}成^{イメ}成^{イメ}し^{イメ}子^{イメ}母^{イメ}鈎^{イメ}連^{イメ}して^{イメ}五^{イメ}六^{イメ}相^{イメ}簇^{イメ}成^{イメ}く^{イメ}其^{イメ}塊^{イメ}は
紫^{イメ}赤^{イメ}色^{イメ}を^{イメ}ふ^{イメ}ふ^{イメ}の^{イメ}し^{イメ}亦^{イメ}ふ^{イメ}阿^{イメ}と^{イメ}深^{イメ}紅^{イメ}阿^{イメ}李^{イメ}淺^{イメ}紅^{イメ}阿^{イメ}と^{イメ}淡^{イメ}黃^{イメ}
阿^{イメ}と^{イメ}濃^{イメ}黃^{イメ}阿^{イメ}と^{イメ}淡^{イメ}白^{イメ}の^{イメ}二^{イメ}色^{イメ}成^{イメ}成^{イメ}阿^{イメ}と^{イメ}形^{イメ}を^{イメ}取^{イメ}ち^{イメ}を^{イメ}圓^{イメ}子^{イメ}し
て^{イメ}長^{イメ}し^{イメ}本^{イメ}末^{イメ}皆^{イメ}銳^{イメ}て^{イメ}末^{イメ}を^{イメ}た^{イメ}少^{イメ}し^{イメ}細^{イメ}類^{イメ}阿^{イメ}李^{イメ}肉^{イメ}の^{イメ}質^{イメ}理^{イメ}臆
潤^{イメ}阿^{イメ}り^{イメ}て^{イメ}生^{イメ}を^{イメ}白^{イメ}黄^{イメ}阿^{イメ}の^{イメ}二^{イメ}阿^{イメ}り^{イメ}る^{イメ}氣^{イメ}味^{イメ}を^{イメ}甘^{イメ}平^{イメ}無^{イメ}毒^{イメ}
生^{イメ}熟^{イメ}俱^{イメ}子^{イメ}食^{イメ}可^{イメ}し^{イメ}○^{イメ}蒔^{イメ}と^{イメ}種^{イメ}ふ^{イメ}の^{イメ}法^{イメ}傳^{イメ}習^{イメ}録^{イメ}等^{イメ}を^{イメ}詳^{イメ}ふ^{イメ}し^{イメ}此

方^{イメ}ま^{イメ}く^{イメ}農^{イメ}業^{イメ}全^{イメ}書^{イメ}を^{イメ}要^{イメ}し^{イメ}く^{イメ}記^{イメ}し^{イメ}を^{イメ}述^{イメ}ぶ^{イメ}と^{イメ}皆^{イメ}う^{イメ}急^{イメ}試^{イメ}した
ふ^{イメ}し^{イメ}の^{イメ}熟^{イメ}せ^{イメ}ぎ^{イメ}終^{イメ}ハ^{イメ}わ^{イメ}く^{イメ}く^{イメ}ぬ^{イメ}多^{イメ}し^{イメ}凡^{イメ}此^{イメ}の^{イメ}ハ^{イメ}二^{イメ}月^{イメ}を
う^{イメ}ぐ^{イメ}圓^{イメ}中^{イメ}日^{イメ}阿^{イメ}り^{イメ}る^{イメ}を^{イメ}宜^{イメ}し^{イメ}く^{イメ}南^{イメ}向^{イメ}の^{イメ}暖^{イメ}地^{イメ}成^{イメ}え^{イメ}る^{イメ}を^{イメ}深^{イメ}く
耕^{イメ}し^{イメ}板^{イメ}菜^{イメ}類^{イメ}と^{イメ}ま^{イメ}ら^{イメ}る^{イメ}も^{イメ}馬^{イメ}糞^{イメ}と^{イメ}家^{イメ}の^{イメ}地^{イメ}の^{イメ}温^{イメ}み^{イメ}細^{イメ}く^{イメ}掘^{イメ}り
して^{イメ}諸^{イメ}塊^{イメ}と^{イメ}從^{イメ}り^{イメ}細^{イメ}く^{イメ}う^{イメ}ら^{イメ}や^{イメ}又^{イメ}手^{イメ}で^{イメ}か^{イメ}し^{イメ}ま^{イメ}し^{イメ}土^{イメ}成
か^{イメ}り^{イメ}も^{イメ}阿^{イメ}り^{イメ}却^{イメ}り^{イメ}土^{イメ}成^{イメ}露^{イメ}も^{イメ}宜^{イメ}し^{イメ}て^{イメ}上^{イメ}り^{イメ}ハ^{イメ}腐^{イメ}り^{イメ}た
ふ^{イメ}芽^{イメ}菜^{イメ}類^{イメ}と^{イメ}家^{イメ}の^{イメ}地^{イメ}の^{イメ}温^{イメ}み^{イメ}三^{イメ}月^{イメ}を^{イメ}む^{イメ}り^{イメ}芽^{イメ}と^{イメ}露^{イメ}生^{イメ}し^{イメ}漸^{イメ}く^{イメ}蔓^{イメ}成
ふ^{イメ}此^{イメ}是^{イメ}と^{イメ}南^{イメ}床^{イメ}を^{イメ}う^{イメ}ら^{イメ}ふ^{イメ}蔓^{イメ}一^{イメ}二^{イメ}尺^{イメ}を^{イメ}及^{イメ}ぶ^{イメ}結^{イメ}細^{イメ}雨^{イメ}中^{イメ}を^{イメ}く^{イメ}
を^{イメ}雨^{イメ}後^{イメ}の^{イメ}曇^{イメ}り^{イメ}を^{イメ}ふ^{イメ}り^{イメ}と^{イメ}え^{イメ}る^{イメ}も^{イメ}芽^{イメ}成^{イメ}缺^{イメ}け^{イメ}り^{イメ}別^{イメ}に^{イメ}耕^{イメ}し^{イメ}掘^{イメ}り
つ^{イメ}直^{イメ}ら^{イメ}ふ^{イメ}畑^{イメ}を^{イメ}二^{イメ}尺^{イメ}を^{イメ}う^{イメ}り^{イメ}つ^{イメ}間^{イメ}畑^{イメ}の^{イメ}多^{イメ}横^{イメ}相^{イメ}距^{イメ}あ^{イメ}り^{イメ}七

八寸間子種多し是とかげうゑと云ふ
苗床一步は落堀
 四五斗強うゑ一
 ぢん苗まで二畦
らづめてかげうゑはたふは一ぢん苗
 まうゑ及びあま
 やうゑ又跡をあ芽しをぬと二ぢん苗三ぢん苗と云ふ
 四月初らうゑの月うゑまゝに殖れり二ぢんの苗と
 種うゑに一ぢん苗まで種まし蔓成長わりゆゑ是は
とせうと種うゑは農業全書うゑ早せむは深ぐまや
 いづれもゆゑに種まむ民力及ぶはぬは雨後種ま時
 は何程の^{ツヨキ}日あも活^{ツカ}どとつゝなし如^カ種殖して
 夏の内に其蔓の節々地に着ぬ根子時茶は除き蔓と
 左右へ移し^ト移し根子力いじ塊は成しと大うゑて

且多しかくゆゑと蔓^{ツラカシ}反らゝ其まゝみゝ^{チリハビラ}後蔓と云
 節々地に着て^ト蔓はせどれを根子塊少し初め種一と
 二之度と草と種を蔓と移し^トまゝてまゝを写し^トは用
 るあも種てなし
計富民初苗と種うゑに一株あはし
 成しと種くし^ト素^ト灰と少しつゝ根子あて種れを塊と
 大なる^トや^トつゝ
○今北陸の農家ハ甘藷の苗床と云ふ
 ば畑乃耕^{ウチ}あゝ^トつゝ畦筋^{ウチ}とぬ^ト塊種^{イモ}一と二の三
 小引缺て^{サトイモ}蹲^ト鳴^トうゑるやうして土を^{カサ}掩^トぬ^トあもや
 つりされどかくいあんハ種塊^{ウチイモ}多く費^{ツレ}て工夫^テと種子^トか
 かりぬ^トは必^ト蔓種^トまゝ^トのあし^トあ^トれども北越ハ
 米粟^ト糧^ト度して東陸^トとあ^トや^ト秋^ト成^トの後ハ錢^ト一^ト百^トと云

て米乃三升四升も實あるれば甘藷あんなだけ盛立一
升強く十錢有るに足らぬに氏其のくハ物とも
おもはざるより其の瑞穂乃邦のありがごとくありし
外國乃地道と曰はれりして流るるもときまらざる○雨多
記し又を肥るたふ地は種は蔓れと云して塊少し
取ら農政全書曰外滋藤蔓根不入土結卯無力又曰盡成
枝葉層疊其上徒多無益也宜剪去之猶中飼牛羊凡土
氣堅硬と終ハ蔓去して根入らば好む種るの地を沙地
の柔なるは良しと云く河内と本藩及南島津隄まで
を彼所謂呂宋國の如く野に被り山に連りて少しの閑

地何れハ皆種ゆるにまよふも地と擇むと何れを
越して九十月霜の一二度も降りて蔓葉の凋ちたる
地晴日の暖あつばえとみて種を蔓れりて淋しく
掘り根を採りて其の茎を除去して去て收藏せしむ
此時より根塊最充實して味も之を越せりて雪
雨の降る日より掘れぬと云はれ必し腐壞て久し保ち
がらし亦よくうゑるに七月の末より種ハ根塊漸
く長し味も附ぬと云はれ塊と云はれ治り蕎麥成りて二
ハヤと云はれ採りて○又一法ハ蕎麥成りて一歩も著
塊の中を種と種とを長し六尺をくりて

蔓長きもの地梅雨の比一時又起る刈り取らざるは
は横なく一節づつ壊て土に露の種多し是と長種
すつ又其蔓は二尺許りよりして両頭と土に埋り
れは中省の節より蔓を生し其端を塊と成す何れ又
八九寸一尺よりして種する何れ又南方の暖地を十月
の末根と採り種する老莖を埋め其根を春より種す何れ
種くお芽するは別莖あがる種種は長き種より早くして
根は取れくくも子し又南島の地を最も霜雪多し此
冬一とせ種てより三年の省を篋子類して四時掘り出
し塊の大ききと採りて小なるをまき土に露の種は

是のハ蔓と引あげて塊と採り其より蔓端と地を種
種するとして不熟な留ま生さばいこねて此等いろくの種
は地道の空穴ハ土宜の肥磽を従ひ人力の多少を任
せ工夫の種分さるものあり○本綱に甘藷其根似芋亦有
巨魁大者如鷄卵小者如鷄鴨卵とあり然るも本藩の美
田より種する者ハ大者ハ徑二尺五六寸圍り成るものあり
之と種を重六斤或ハ七斤より及ぶわの赤珠かきとそ
の一尺五寸圍りものハ膏腴の地あるごとく其味なり
○藩塊及種子は種する第一の法は夫極寒の地を蓄
種するにあつたふらざるこれ種種の法とほが種ハふ

李此種字或畏濕と惡む故に初冬寒の志をく暖むる
以前は晴日の暖みをおぼえぬと云ふ振るをせし塊は疵所
於を速に食用せし其金との成えぬと云ふ屋宇の扉下南向
の園下林藪の蔭をせし北風の所々は濕氣と少き地
に害はゆり稲稈粟がく類と發落塊と發光上ると云ふ
類と害は其上より土は高く封せ雨の洩入はれぬ振るし
て發せし是今の種樹家諸地菓花と害藏して冬月花
成候ししもの比にあり蒸と蒸るももがく力成用ふ
む何もの地より種子と留むるをせし志うして漸く春暖
み及んとて穽中より埋玉を自然に發生する事と云ふ云々

芽と生し味も淡泊を食し食用は堪へば故に其分前候
寒を厚く成りし中より其氣を中より採出し腐爛の氣は亦
に食用せし完全なは苗成りし中より其氣を中より採出し腐爛の氣は亦
のよ又風の通ふ様にして種を食す既凍の患をく
まは濕氣と免す夏より初秋よりして新塊の熱をくま
て喰ひ續くがし唐山の書に藪草をて包む通風は所よ
陰乾らるゝの法は種ごとを氷凍の害を免れぬと云ふ冬を
害中より之を防ぎ春を通風の所より濕氣を免れぬと云ふ良
と云ふ○此等の成用ふは種を俱に佳し字をせよて嘆一ハ
甘漿瀉くして湯成止魚し
次は種がと多く冷感く
次は深し或は腹痛の患

西遊し又を煨^ヒて食ふと第一中^ハ民胃の食^ヲを養^フて
はとより食ふ或は難^ク穀^ヲより食^フる一^ハ食^ハる^ニ亦^ハ餅^ヲや^シ糕^ヲ
とも^ハ亦^ハ片^ヲ切^リて日乾^シ一^ハ餅^ヲを^ハ或^ハを^ハ切^リ片^ヲして^ハ
子^ハ浸^シて^ハ浮^ルと^ハ去^リ査^ス滓^ヲ濾^シて^ハ子^ハと^ハ晒^シ乾^ス
一^ハ行^ハふ^ニ是^ハ以^テ唐^ノ芋^ノの^ハぬ^ルや^ハ一^ハ生^ハ用^ス葛^ノ粉^ヲと^ハ同^シ小^ノ麦^ノ
粉^ノ條^ノ下^ニ諸^ノ粉^ヲと^ハ出^セ一^ハ皆^ハ此^ノもの^ニあ^リと^ハ査^ス滓^ヲ
を^ハ手^ヲて^ハ末^ヲと^ハし^テ養^フや^ハ一^ハて^ハ食^フ一^ハて^ハ棄^ス擲^スと^ハ
次^ニ又^ハ釀^シて^ハ燒^シ耐^シと^ハ升^ヲと^ハの^ハ法^ヲを^ハ下^ニ氏^ハ此^ノ諸^ノと^ハ釀^シ
燒^シ耐^シ製^シて^ハ百^日の^ハ蜡^ノ一^日の^ハ滓^ヲと^ハ棄^スと^ハ又^ハ雪^ノ霜^ノ
子^ハ造^ルと^ハ壞^ルした^ハと^ハ一^ハは^ハか^ハら^ハ棄^スと^ハ一^ハは^ハか^ハら^ハ一^ハは^ハか^ハら^ハ

浸^シ水^ヲ飛^タせ^レハ^ハ正^ニ味^ハ好^シと^ハ唐^ノ芋^ノの^ハぬ^ルと^ハ成^ル亦^ハ葛^ノ粉^ノ
と^ハ同^シ○西^ノ土^ノの^ハ書^ハ六^益八^利十^三勝^と一^ハ説^ハ何^ノ字^ノ甘^ク
薯^ノの^ハ功^ハ能^ハ民^ノ人^ノの^ハ治^メ用^具と^ハぬ^ルと^ハ一^ハ今^ハ此^ノと^ハ譯^ス一^ハぬ^ル金^ノ
薯^ノ傳^習錄^ノ附^載清^陳雲^番薯^療病^六益^其一^曰痢^疾下^血或^ハ
治^メと^ハ一^ハ此^ノ薯^ヲ蒸^シし^テ煎^シて^ハ藥^煎湯^とて^ハ頻^ク嚼^服と^ハ
或^ハ薯^粉或^ハ冬^蜜と^ハ調^へ服^シて^ハ驗^何と^ハ其^二曰^酒積^熱瀉^と
と^ハ治^メと^ハ一^ハ此^ノ薯^ヲ煨^ヒて^ハ熱^食と^ハ其^三曰^濕熱^黃疸^と治^メ
と^ハ一^ハ此^ノ薯^ヲ用^テ煮^食と^ハ一^ハ其^黄お^のつ^り退^と
く^ハ其^四曰^遺精^淋濁^治と^ハ一^ハ早^晩と^ハ一^ハ此^ノ粉^ヲ用^テ
お^の濁^一治^メと^ハ一^ハ大^ニ奇^功何^ノと^ハ一^ハ五^曰血^虛經^亂或^ハ治^メと^ハ一^ハ

よは此薯と因て瘰癧頻に發し其脾を潤一膏の脾とし
て健よしと物と生れせしは終に經期自に定れ其六日
小兒疳瘕治を承り此薯最能潤燥ししは成生し
中と安し胃と膏ふ承り常と發せしは是ハ舊積化して
疳愈ふなり也 今南方の人老幼を何損の病ありて食して
忌むし但此薯を醸したる燒酎と強飲
すれば疳を患ふ事の
左必飲者も ○傳習錄又附載清陳世元種薯ハ
利日原野沙堤山坡海岸丘鹵墳植何れも地より宜り
次といふも亦よく各生じ遂に皆收穫多し其利一也
凡百穀より早潦雨暘の時若くは雨して氣候成起しぬれ
む種取しつゝと無統の年何れ此薯を夏地内き一種

ぬる雨旱俱に損侵なく風と蝗も害もふと能く
儉歲もと攸納多し其利二也地氣寒燠は是れよく夏種
く秋收じ百日と計り功成る霜のつゝと墮は多し其
既^{イサキ}に登^{コホリ}り凍の効く消るゝ肥芽便ち甚^{モト}に生^{モト}效し蒲盧
に遠く功ハ菽粟より多し其利三也法の耕作も苦勞
多しといふと薯を一^{サシ}に挿く自ら蕃^{サカ}り草茂難て熟
と海^{チニチカラ}川功力を農功に比ぶるべしと嘗て嘗^{ミル}て生る穀
よ候^{ミシ}りり其利四也地を釋ぎて生れを穀地成妨
時と計りて種は農時と妨地を荒廢あくるて民
家子餘饒阿字主利五也桑生を種ハ即食食一瘰癧瘰癧

腹と果し淹廻りて藟子えの脾胃兼補の童叟咸宜
 し其藤蔓を性高と何なる一其利六也生熟裁受咸く
 食ふ多し餅餌やふし團飴は製し皮と連ねく酒は造り
 粉と搗て羹は粥の脯は似りて糧と資多晒し片にして
 倉庫に積む其味を梨棗と同しく功を福梁に並ぬ其
 利七也豊年とて計ふに膏腴乃上地每畝穀子法收ふ
 一と五百觔キッと老くし大麥小麦膏梁蕎麥の收茂大田者相
 等し薯芋則上地一畝約とふ萬餘觔下地と五六千觔
 と收じ碾臼と頰とと且糠糲ふし其利八也○農政全書
 云薯有十三勝農業全書よ薯と譯していらく一ものを

總より一畝なるりの地より作ると根四五十石と出るる
 今西州より上地一畝十二三石と收げ其地力二
 の方よりや然ると他はこれハある收納多し二
 小を色白く味は甘く法は作物の中は是れ最も力當
 味稀なり三小人の薬とふふと山薬と同し四小石
 一かぬり莖と切分る種はつまハ来年は二三十町を
 引れ種子やとほれものなるふら枝と蔓と地より引
 節より根と生し風雨をこころをふく出さるし六
 ものを食物に成ふと五穀と同し其ゆゑは僅か免るあり
 七ものを清く見おとふはゆゑ盛ん物なり用ひ或は葉
 物茶より種く料理し小葉子とていらくは物あり八

した酒よ造るるがーぬやな干て久しく貯一ふ食とあし
 又粉よして餅の何よは用ね積立て味よし十よを生ふ
 ぐしと煮ても食ふるがー十一よを極く積り地よくも
 根ぶらよまきくそ瓜作るふ若芽とあく早よあそく
 まよとんひ習さのこ入ど十二よは其夏うゑく冬のを
 じめ積り物よそ枝葉極くそあくさくんふふゆゑ他の
 他物のおやく中うら蒸ふこも多く入ば^{イサキ}農人の
 味と好ぶぬやふし十三よは根の葉積ふふ所を土の底
 よ何れゆゑ虫氣のよし他の他物を葉茎まで喰つくせ
 いらしと積りまきせどしてゆと空しくもあとい



一がと此諸をたよひ虫葉は喰はくしても頓く又生し
 の虫やしよと換失らふあやふしそ瓜落の十三
 他の作物よ積りまきせどしてゆと空しくもあとい

成形圖說卷之二十終

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

